

JSQC ニュース

No.234

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「ISO9000:2000審査研究会の活動」
- 2-私の提言「現状の問題解決のための情報発信源として」
- 2-ルポタージュ 第275回本部事業所見学会ルポ
- 3-わが社の最新技術「NECの環境配慮型パソコン」
- 4-文部科学省応募/図書割引のお知らせ/12月入会者紹介/行事案内

「ISO9000:2000審査研究会の活動」

(有)福丸マネジメントテクノ 代表取締役 **福丸 典芳** ISO9000審査研究会

ISO9000の審査のあり方と審査員の力量についての研究会の活動状況を報告します。

1. 研究会設置の目的

ISO9000:2000が2000年12月に発行され、この規格に基づいて審査が行われることになりました。しかし、この規格では、1994年版に比べプロセス重視の規格構成となったこと及び品質マネジメントシステムの有効性評価を行うことが要求事項となったため、これらに対応するために審査員の力量を向上させる必要があります。また、規格の要求事項が、一般化されたことにより、審査員の力量が従来より高度なレベルでなければ判断が下せないような場面が多くなると考えられます。このような事態を打開するため、審査員はどのような力量を持って審査にあたるべきかについて、品質管理学会として一定の方向性を示すべく、学識経験者、審査登録機関、審査研修機関からなる専門家による研究会を2000年12月に開始しました。最終のアウトプットは、審査にあたって必要な審査員のガイドラインを策定することとしています。

2. 検討状況

検討にあたっては、月一回の割合で研究会を開催することとしました。第1回は問題点の抽出のためのフリーディスカッション、第2回は第1回の議論を踏まえ審査技術、審査知識及び個人の特性を検討課題とすることを決定、第3回、第4回は検討課題について各人の発表、第5回から第12回では、議論を効率的に行うため、2グループで議論することとし、WG1は審査技術の有効性とプロセスの見方、WG2は審査員の知識のうちQC手法と専門性について議論を行ってきました。

WG1では、製造会社、物流会社、ホテル業、注文住宅設計・施工会社、介護ビジネスに関するプロセスについて検討するとともに、業種によらないプロセス毎の監査のポイントとして、文書管理及び記録の管理、責任、権限及びコミュニケーション、マネジメントレビュー、資源の提供、教育・訓練、インフラストラクチャ-提供のプロセス、作業環境の明確化と運営管理のプロセス、監視・測定に関するガイドライン及び品質マネジメントシステムの有効性を評価するためのガイドライン、一方、WG2では、審査チームに求められる専門知識としての業種別の専門知識

の必要度、及び審査員個人に要求される品質管理の知識についてのガイドラインを作成する予定です。

なお、途中経過として昨年日本品質管理学会の年次大会で2件の発表を行いました。

このように2002年1月現在まで12回の審議を重ね現在最終段階になっています。今後は、検討した結果を取りまとめるとともに、議論の不足している項目についてさらに検討する予定です。

3. ガイドラインの内容

ガイドラインについては、①品質マネジメントシステムの有効性、②審査技術、③審査チームの専門知識、④審査員に要求される品質管理の知識に関するものを作成する予定であり、ガイドライン発行の時期は、2002年第三四半期を予定しています。

4. 今後の予定

ISO9000に関する審査員及びコンサルタントの方々が学会員に多数参加されていますので、これらの方々へのサービス向上のために、2002年6月に本研究会の成果についてのシンポジウムを開催する予定です。多数参加をお願いします。

私の提言

現場の問題解決のための情報発信源として

松下電子部品(株) 田部 信雄



経営者にとって品質は当たり前、日夜売上増加、コスト削減に奔走し叱咤激励する。しかし一端品質問題が起これば品質部門を攻める。そこに従事するものは何でワシらばかり責められるのかと不満が募る。

おまけに人事評価も多職能に比し低く、昇進、昇格も遅れ気味。これらが続くとQCだけはやりたくないとの思いが強くなる。一寸極端な表現をしたが、こんな光景を何度となく見たり相談を受けたりした。

その都度品質管理業務推進は難しい面があるが、企業の根幹をやっているので必ず役立つから頑張れと励まし

てきた。

このような光景はTQM活動をよく推進している企業でも多かれ少なかれ現場第1線で見られるのではないか。

そのような中で現場第1線で毎日泥臭い改善活動・維持活動をやっている若い人達に対してQC学会入会を勧めても“メリットがないから入会しない”という。

確かに私自身も常日頃そう感じている面もあるのでそれ以上薦めることが出来ない。

QC学会を現場第1線からみて魅力的なものに変身するにはどうすべきか、会長が発信されている“会員の会員による会員のためのJSQC”を目指してゆくにはどう変革したらよいか今一度素直に考えてみる必要がある。

学会といえども現場から遊離してしまえば単なる学問で大学や一部の人の同好会になる。

最近現場の問題解決にすぐ固有技術的に対策を打つ傾向がますます強くなり、管理技術的対策が弱くなっていると感じている。

品質管理は実学であり、それをリードする学会としてはQCに関する先端的な研究発表・交流の場など本来的な活動と共に

- ①現場の課題を取り上げ管理技術的に解決するための研究・交流する場
- ②現場の課題解決の駆け込み寺的な運営・サービス

など強化する必要があると考える。特に②の研究成果は“品質誌”で公開し会員外にも配布すればもっと学会の存在感が増し、魅力的なものになると確信する。

今日本は最大の危機に瀕している。QC面から何が出来るか、学会全体で課題事項をあげ本部支部での独自の計画以外に共同課題として取り上げ新しい形態の研究会やシンポジウムを企画し企業にPRしてはどうだろうか。

現場を直視し、現場と目線をあわせた活動をもっと強化して物づくり日本の復権にQC学界がリーダーシップをとりたいものである。

第275回本部
事業所見学会
ルポ宮川卯之助商店&太鼓館
フィーリングの本命・太鼓
- 技能によるものづくり -

11月30日に、文久元年(1861年)創業の同店にて秘法の太鼓作りの作業と太鼓館の見学会が18名の参加で開催された。

同店の越智 恵氏(太鼓館室長、学芸員)より概要をお伺いしたのち工場にて、胴の表面仕上げの作業と皮を張る作業とを見学した。

表面仕上げは手の感触を頼りに鉋で仕上げていくという「匠の世界」、皮を張る作業は①皮のヘリに竹を通し縄をかける、②台座にのせ、台座の間に四方から楔を打ち込み、台座を押し上げて皮をのばす、③皮の表面を槌で叩く、④音を確かめ(百年後の音を思い浮かべて)良いところで鉋を打つ(1尺5寸の太鼓で約250個必要)。(絵がないのでわかりにくいと思う)

参加者から、ロボットや自動機を活用したらとの質問に越

智氏は「アイデアは買いますよ」(笑)と答えた。

太鼓屋が浅草寺周辺で店を開いたのは、皮革と鉄鋸が手に入り易いという条件が整っていたからだそうだ。太鼓館(雷門近く)は、昭和63年に開館され、収蔵されている太鼓は約600点(アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ等)、文献図書、視聴覚資料も各々3000点を越え研究者への閲覧、利用の便宜をはかっている。この様な博物館は世界で当館のみとのことだ。

また展示品に触れたり叩いたり実際に演奏してみたいという要望にも応えている。

ちなみに同店のカタログによると神社仏閣用の長胴太鼓は(直径3尺、本樺製)13,500,000円とあった。

ただし、当日参加者が入れ替わり立ち代って叩いた太鼓は1億円をこえるとのことでした。(ばちが当たらなくてよかったですね)

太鼓は神と人、人間同士の伝達手段などとして伝承されてきたわけですが、その太鼓を技能によるものづくりで続けてこられた宮本卯之助商店に敬服した一日でした。

嶋津 司(タマチ電機)

わが社の最新技術

NECの 環境配慮型パソコン

NECカスタムテクニカ(株)
総務部 環境管理グループ
エキスパート
佐藤 保治

1. はじめに

環境問題は、人類にとって重要な課題となっている。当社は、環境との調和を経営における最重要課題の一つとして位置付け、早い段階から地球環境にやさしい製品の開発を推進してきた。ここでは、NECのパソコンにおける環境に配慮した素材技術やエコマーク商品について紹介する。

| | 90 | 93 | 97 | 98 | 99 | 00 | 2001 |
|---------------------------|----|----|----|----|----|----|------|
| 再生プラスチック (自社回収、サンドイッチ) | | | | | | | |
| 再生プラスチック(市販) | | | | | | | |
| エコポリカ | | | | | | | |
| 再生エコポリカ | | | | | | | |
| マグネシウム合金 | | | | | | | |
| アルミ合金 | | | | | | | |
| 六価クロムレス鋼板 | | | | | | | |
| 水系塗料 | | | | | | | |
| 鉛フリー | | | | | | | |

採用時期を示す

表1 低環境負荷素材の採用履歴

2. 低環境負荷素材の採用

NECのパソコンは、環境負荷の少ない新しい素材を早い段階から積極的に採用してきた(表1)。

1998年に、ハロゲン化合物やリン化合物を含まない新しいタイプの難燃プラスチック「エコポリカ」を開発し、パソコン筐体の素材の一つとして採用を開始している。また、循環型社会形成の観点から、再生プラスチックの使用も平行して行っている。1999年には、鉛フリーはんだによる実装技術を確認し、世界で初めて同技術をモバイルノートのマザーボード等の部品実装に採用した。現在までにデスク

トップパソコンを含め、10数機種を鉛フリーはんだで商品化している。さらに、マグネシウム合金、アルミニウム合金、六価クロムレス鋼板、水系塗料などの採用も推進している。

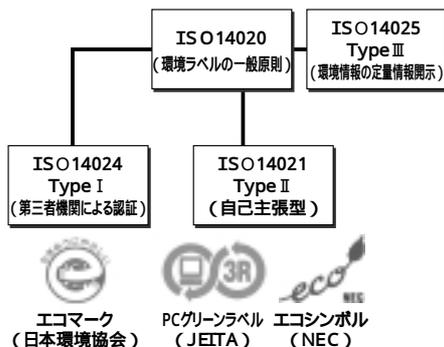


図1 国内の環境ラベル

3. 環境ラベルへの対応

商品の環境配慮を総合的に表す指標の一つとして環境ラベルがある。国内の環境ラベルは、図1に示す通り、Type I、Type II および Type III の3種類がある。NECは、1998年に独自の環境ラベル「エコシボル」を制度化し運用している。このラベルの基本条件は、NECが定めた環境配慮基準を満足すること、先進性があること、および透明性が確保されていることである。

2000年11月には、ノートブック(A4ノート、モバイルノート)および14.1型LCDモニターで、PCエコマークの第一号認定を取得した。引き続きデスクトップ(ボックスレス型、スーパースリムタワー型)への展開やLCDモニター(15型、15.4型、17型)での拡大を行い、全カテゴリーで取得している。PCエコマークは、2000年9月に日本環境協会により制定されたもので、パソコンの環境基準としては国内初の第三者認証基準であり、広範囲にわたる環境配慮を要求する国内で最も厳しい基準の一つである。また、JEITAが業界の自

主統一基準として制定し、2001年10月から運用を開始したのでPCグリーンラベルへも全商品が対応している。

4. エコマーク認定商品の特徴

写真1は、NECパソコンのエコマーク認定商品である。モバイルノートでは、再生プラスチック、エコポリカ、マグネシウム合金および鉛フリーはんだを採用している。ボックスレス型は、本体部と液晶ディスプレイ部を一体化したもので、1998年に商品化した省スペース性の高い商品であり、現在も形を変えることなく販売している。この商品では、再生プラスチック、六価クロムレス鋼板および鉛フリーはんだを採用している。LCDモニターに関しては、早い段階から環境配慮型を目標に開発に取り組んできた。低環境負荷素材としては、エコポリカ、再生プラスチック、六価クロムレス鋼板、水系塗料などをいち早く採用し、現在もこの考えを継続している。

・各種環境ラベルの対象商品の検索は、以下をご覧ください。
<http://www.nec.co.jp/eco/ja/personal/>
・エコマーク商品の契約団体は、NECカスタムテクニカです。

写真1 PCエコマーク認定商品

5. おわりに

以上、当社の活動をパソコンでの環境配慮を例に紹介した。今後も「エコシボル」制度に基づく活動をはじめとして、より環境に優しい商品・サービスを提供したいと考えている。

文部科学省 平成14年度 「独創的革新技術開発研究の提案公募」

公募対象分野

- ① IT国家の実現、
- ② 少子・高齢化への対応、
- ③ 環境問題への対応、
- ④ 地方のまちづくり・都市の再生、
- ⑤ その他革新技術の5分野の技術開発に関する研究

応募対象者

研究活動に携わる個人、グループ、民間法人

助成規模・助成期間

1研究テーマ、年間1,000万円～5,000万円
平成14年度を始期とする2年間又は3年間

公募期間

平成14年2月1日(金)～3月25日(月) (必着)

問い合わせ先・申請書類提出先

(財)日本科学技術振興財団(提案公募係)
〒102-0091 千代田区北の丸公園2-1
TEL:03-3213-2721 FAX:03-3212-0014
E-mail: teian@jsf.or.jp
ホームページ: <http://teian.mext.go.jp/>

図書割引のお知らせ

JSQC会員の皆様! (株)日科技連出版社発行の書籍が20%割引になります。お申し込みは以下のE-mailからお願いいたします。

jusep-qc@green.an.egg.or.jp

申込方法: 会員番号、氏名、連絡先、書籍名をご連絡ください。

送料: 一律280円
5000円以上無料

2001年12月の入会者紹介

2001年12月4日第329回理事会において、下記の通り正会員47名準会員2名の入会が承認されました。

(正会員)47名 稲垣典久・小幡裕司・川田武司・鎌谷達夫・小林昭司・豊田幹一郎・中村俊一・名倉敏一・林 稔(アイシン精機) 渡辺 実・佐野哲也・仲見一也(デンソー) 石田久美・柏木陽一郎(豊田自動織機) 喜田次彦(喜田品質監査事務所) 後藤元作(テイカ) 徳永 薫(荏原テクノサーブ) 盛谷浩史(ISO審査員) 山田芳恵(アイ・エヌ・シー・エンジニアリング) 有田好博(有田コンサルネットワーク) 永島 巖(中小企業診断士) 中務将弘(ロッテ) Richard Zultner(Adjunct Professor) 蒲原茂樹(ダイセル化学工業) 金本正和(海外貨物検査) 守屋 明(エスジーエス・アイシーエス・ジャパン) 小川正晴(日本電気) 篠丸康夫・辻倉米蔵(関西電力) 加藤

正城(日産自動車) 宮本 潤(埼玉学園大学) 寺島 毅・大粒来 豊(シンセベース) 築山慎太郎(技術情報協会) 横山雄二(ナブコ) 水品誠一郎(石川島播磨重工業) 古沢和夫(日本飛行機) 柿内 昇(香山組) 陳 津生(天津市翔雄新材料科技有限公司) 浅野宗克(浅野経営研究所) 川井龍悟(ペリジョンコンサルティング) 松井英治(竹中工務店) 榎本正(神鋼バンテック) 山田敏男(神鋼特殊鋼業) 桜井政人(カシオ電子工業) 青木一男・中西秀昭(日本科学技術連盟)

(準会員2名) 諫山哲平(東京大学) 元野真稔(山梨大学)

正会員:3045名 準会員:90名
賛助会員:186社、210名 公共会員:210名

学会理事 橋本 寿朗氏 ご逝去

当学会、学会理事の橋本 寿朗氏は、去る1月15日、急性大動脈はく離のためご逝去されました。享年55歳。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

人事連絡

『阿部祐子氏の管理職登用』

理事会決定を受け、下記のとおり実施となりましたのでご連絡いたします。

記

1. 対象者 阿部 祐子
2. 職位/職務 管理職
事務局マネジャー
3. 登用日 2002年1月1日

庶務委員会

行 事 案 内

第69回研究発表会(本部)発表募集

日 時: 2002年5月25日(土)
会 場: 日本科学技術連盟・本部
(1)申込期限

| | |
|---------------------|---|
| 発表申込締切 3月29日(金) | アブストラクト: 200字以内 テーマ、発表者名、連絡先記入 発表申込書が着き次第要旨「原稿の書き方」等を送付します。 |
| 予稿原稿締切 5月7日(火)必着 | (22字×40行×2段)×4枚以内 |
| 参加申込締切 5月15日(水) | 3月下旬に研究発表会ご案内・参加申込書を送付します。 |

(2)研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込書に、氏名(発表者には印記入)、発表テーマ、アブストラクト、連絡先を記入の上、期日までに本部事務局宛ご送付ください。

(2)参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申込ください。

第28回クオリティバブ(本部)

日 時: 2002年3月13日(水)
18:00～20:00

会 場: (財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル 5階

テーマ: 「QCサークルのグローバル展開」
- 今、中国をはじめアジアのQC

サークル活動は予想を超える -

ゲスト: 岩崎 正俊氏(サンデン(株)理事)
討論者: 松本 隆氏(古河電工(株))
小川 正晴氏(日本電気(株))

会 費: 会員3000円 非会員4000円
準会員・学生一般2000円
(含軽食)

申込方法: 氏名・所属・連絡先明記の上本部事務局宛お申込ください。

30周年記念ISOマネジメント・システム 公開講座 第8回

日 時: 2002年3月15日(金)
18:00～20:00(質疑30分含)

会 場: (財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル 地下1階講堂

テーマ: メディアからみたISOマネジメント
講 師: 藤本 瞭一氏(日刊工業新聞)

参加費: 学会員3000円 非会員5000円
申込方法: 氏名・所属・連絡先明記の上、本部事務局宛お申込ください。

第82回(中部支部第38回)講演会

日 時: 2002年4月19日(金)
13:30～17:00

会 場: 豊田工機(株)厚生年金基金會館
「ういず」1階ホール

講演1: 『苦情という名の贈り物』

講演者: 井口 不二男氏
(株)イノベーションアソシエイツ
エグゼクティブパートナー

講演2: 『発展過程を考慮したTQMの評価・診断法』

講演者: 中條 武志氏
中央大学教授 理工学部
経営システム工学科

定 員: 150名(会員優先)

申込方法: 会員番号・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上、中部支部事務局までお申込み下さい。

申込締切: 4月12日(金)

申込先: 中部支部事務局

参加費: 会 員4000円 準会員2000円
非会員5500円
学生(一般)2500円

各行事申込先

本 部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟内

(社)日本品質管理学会
TEL:03-5378-1506
FAX:03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org

中部支部: 460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
(財)日本規格協会名古屋支部内
(社)日本品質管理学会中部支部
TEL:052-221-8318
FAX:052-203-4806
E-mail: nagoya51@jsa.or.jp